



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第2巻第  
1号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第2巻第1号). 泌尿器科紀要 1956, 2(1): 54-54

ISSUE DATE:

1956-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111090>

RIGHT:

発言を受けた。討議の内容は先ず淋疾に就て最近の淋疾の病像は従前のそれと比べてどの様に変つてゐるか、淋疾は Pc のみにて癒るか、その時の Pc 量はいくらか、Pt のみにて癒らぬものありとすればその頻度は如何、癒らぬと云う場合に淋糸中の淋菌を検査しているか、併用療法を必要とするならばその方法は如

何、健保の治療方針に就ての意見等更に非淋菌性尿道炎に就てはその頻度、病原菌、分離菌の各種薬剤に対する抵抗性、治療法、健保に於ける治療基準等であつた。之に対して教室からは新谷が成績を述べ、又国立病院大矢博士、開業医日野博士、伊佐早博士、円山博士、その他から意見が述べられた。

## 編 集 後 記

文部省科学研究「尿石症」班会議が去る 10 月 15 日横浜市立医大にて班長原田教授の司会の下に開かれた。最近では総合研究の課題数が重点的に制限せられる傾向にあり、泌尿器科領域にては実際上一題と云う有様であるから総合研究班は泌尿器科学会にて極めて重要な意義と責任を有するわけである。



第 20 回泌尿器科東部地方会が去る 10 月 16 日日本医大北川教授司会の下に東京丸の内産経会館国際会議場にて行われた。会場の立派さは勿論、スライド、その他の設備、進行も申し分なかつた。出席者多く追加発表も盛んであつた。唯時間に制約せられるためか自由な気楽な質問、討論がやや少い様であつたが之は学会が盛大になると避けられない事であろう。同夜は歌舞伎座に招かれ丸山教授、その他皮膚科会員と共に懇親を深めた。来年は東京医大と決定せられた。



第 6 回泌尿器科中部地方会が去る 11 月 3 日名古屋大学に於て三矢教授司会の下に開催せられ、同時に皮膚科は加納教授司会にて行われた。第 1 回が同じ会場にて開かれてから既に 5 年を経過し逐年盛大になっている。清水助教授の特別講演「遊走腎について」は多年の研究成果であり、一般演説も極めて真摯に行われた。来年は京大と決定せられたがやや頻回過ぎる感がある。



伊崎正勝博士は今般慶応大学より岩手大学皮膚泌尿科教授に栄転せられた(編集子)。



### 購 読 要 項

1. 発行は隔月(月 6 回)とする。
2. 会員は年間料金 600 円を前納する。1 冊料金 100 円。払込みは 振替口座番号 京都 4772 番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投 稿 内 規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は本会々員に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400 字詰原稿用紙を用いること。
4. 文献の書式は次の如くする。  
著者名：誌名、巻数、頁数、年次。  
例. 中 野：泌尿紀要, 1: 110, 昭30.  
Lazarus, J A. J. Urol., 45: 527, 1941.
5. 300 語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を附け、なるべくタイプライターを用うこと。
6. 掲載料は 4 頁迄毎頁 500 円、それ以上の頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊 20 部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院京都大学病院泌尿器科紀要編集部。